第７回海洋教育サミット　2020.2.15 in 東京大学

中学１年　海の学校　事前学習　社会科学習指導案

日　時：令和元年６月
指導者：教諭　片岡洋平
（学校法人三重高等学校三重中学校）

１　単元（題材）名　海の調査事前学習 ～松名瀬ってどんなところ～

２　単元（題材）の目標

・実際に調査に行く松名瀬の漁業の歴史と文化知る。これらを通して一つ一つ地域に歴史があることを学び、地域への理解を深める

・歴史を知ることで、現代の漁業がかかえる問題を考えることができる

３　指導に当たって

（１）生徒観

今現在、生徒たちは、切り身の魚、土のついていない野菜を買っており、それがどのように」して捕られているか、そこに来るまでにどれだけの人が関わっているか知らない。情報化社会の中にいて、たくさんの情を得ており、世界各地の色々なことを知っている子もいる。しかしながら、自分たちの住んでいる地域のことを私たちはどれだけ知っているかというと、そこまで知らない。私は、その地域にはその生活があることを知ってほしい考え、地域を学ぶことを通して、社会に生きる公共的な人間に育ってほしいと思いこの教材に取り組んた。

（２）教材観

自分自身、海の学校に参加して、実際に漁業をしている人の話を初めて聞いた。
そこには、海とともに生きる人たちがいて、その人たちの生活がまさにあった。生徒たちが海の調査で行った場所かを学ぶことは地域の深い理解に繋がり、自分たちの生活と学習をつなげることができる。これらを学習することで社会（地域）を身近に感じることができ、社会（地域）のことを考えられる公共的な人間になれると考えた。

（３）指導観

地理では、地図を扱うが、その地図の中にも人の生活がつまっていることを感じさせようと考え、地名を導入とした。地名には、その土地の生業や歴史が色濃く残っているからである。人名になぞたえた地名を学ぶことで、地名がただの名前ではなく、人と関わってきていることを実感させようと努めた。また、実際の漁業者の体験談を生徒たちに見せることによって、より身近に漁業を捉えてもらうようにした。海の調査で実際に見聞きするときに、今もなおその地域の人々が暮らしていることを再確認し、深い理解させるようにした。

５　本時の指導と評価の計画
「海と人との関わり」
（１）本時のねらい
・松名瀬から漁業の歴史と文化知る
・現代の漁業がかかえる問題を考えることができる

（２）準備・資料等
『松名瀬干潟を含む黒部地区の歴史を踏まえた海と人との関わりの考察』
三重大学生物資源学部　押田氏の卒業論文
『伊勢湾は豊かな漁場だった』編：海の博物館、発行：三重県漁業組合連合会
『松阪市史』第十二巻史料編近世（２）経済　編：松阪市史編纂委員会　発行：畠山滋
『松阪市史』第十巻史料編近世（２）経済　編：松阪市史編纂委員会　発行：畠山滋
『江戸時代　人づくり　風土記㉔』著：組本社　発行：農山漁村文化協会
『松阪の町の歴史』著：島側安太郎　発行：松阪郷土史刊行会
『松ヶ崎風土記』著：三渡俊一郎
『松阪開府 400 年史』編：松阪市
（３）本時の展開

時間	発問・活動	生徒の予想される反応と活動	教師の指導・留意点
	「海の恵み、あなたは何を思い浮かべますか？」	魚、貝など	身近な海のものを思い起こさせる。
10分	「松阪の地図です。地名に昔盛んだった産業が隠されています。」 塩業の名寄張を提示	塩浜　塩業	塩業の実際の資料を見て塩業が盛んだったことを実感させる。
20分	「現在の松名瀬付近の土地利用はなんですか？」 「今は、塩業を全くやっていないが、それはなぜか。この付近で人の名前を取り入れた地名があります。どこにあるでしょう？」 後藤左衛門の話と当時の新田開発法の話をする。	田んぼ 地図を参考に数分探させる。正解は「後藤」	伝えたいこと 藩の政策により塩業を辞めさせられ、田畑に変えさせられたこと。なかなかうまくいかなかった新田開発を助けた後藤の活躍を話す。
30分	「松名瀬の主要な漁業はなんでしょう？」 黒ノリ景気と言われるほど、発展した。 機械化とともに衰退し、その後あさりが発展したと伝える。	海苔養殖と貝 『伊勢湾は豊かな漁場だった』より喜多さんの話を読む 『伊勢湾は豊かな漁場だった』より小浜さんの話を読む	
40 分	現在の松坂の漁業	松坂漁業のHP。または海苔を見せる。海苔テラスの紹介。海苔オーナー制度	海苔を持ってくる

日本財団 THE NIPPON FOUNDATION
海洋教育促進研究センター
SPF 笹川平和財団
©PRI 海洋政策研究所

時間	発問・活動	生徒の予想される反応と活動	教師の指導・留意点
	「きれいな水と豊かな水は違うと組合長は話されていた。何が違ったのかな」	きれいな水は、全く養分を含んでいない。	
5分	「今一番海が汚れている原因は何だったかな？」	家庭排水	
10分	「豊かな水を作り出すために私たちができることは何だろうか。」	個人で考える　５分	
20分	グループで共有　10分	グループで共有する	
40分	クラスで共有　20分 まとめ	クラスで共有する	